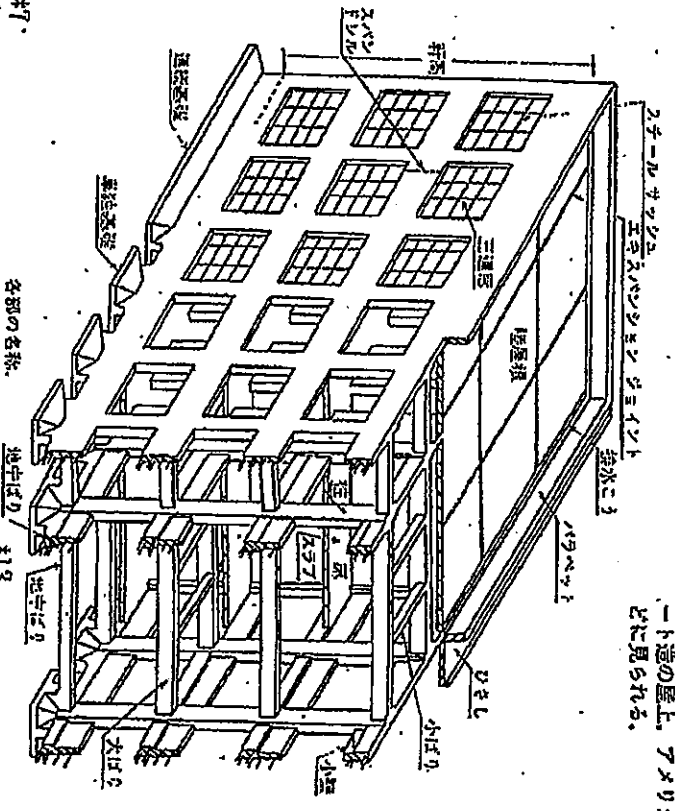


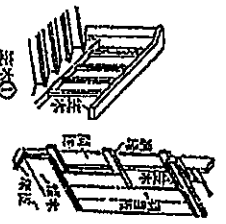


\*3 ろくやね 〔葺屋棟〕 flat roof. こう面が少なくて、旅行できる屋根。

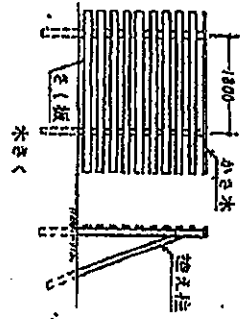
\*6 パラペント parapet ①建物の屋上、橋梁、火被扉下、アラウトフネームなどの構造物において、その先端を保護するために設けられた低い手摺壁、コンクリート造の屋上、アメリカ西部銀鉄時代の木造建物などに見られる。



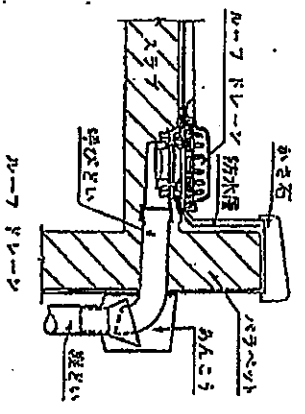
\*7. かさぎ [笠木、葺木、衝木] top rail, coping ①端、手摺、腰目などの上部材、扇状のものの上部の構造物は、元来、葺木(葺りと呼ばれるべきである)が、最近では同様に笠木と称されることが多い。



\*13 エクスパンションジョイント expansion joint 建築物、構造物の接続方法の一、長さが増えれば、橋梁、道路などの温度変化による構造物の膨張または収縮に対し、またはコンクリートの硬化収縮によるつじむれを防止するため、あるいは振動周期の異なる構造物を接続する場合、地震による揺動に対し、構造物に生じる応力や変形性状を制御するために行われる接続の方法。



\*4 ろんざねいん 〔ルーフドレーン〕 roof drain, ろん屋紙の雨水を集め、縦どいを流す金物。



\*5 シートほうすい 〔防水〕 sheet waterproofing 合成高分子ルーフィングを合成ゴムまたは合成樹脂の接着剤で下地に張り付けて防水層とする工事または工法。合成高分子ルーフィングという材料のJIS制定以来、合成高分子ルーフィング防水といわれていたが、同時に俗称とされていた「シート防水」が1987年3月改定の日本建築学会建築工事標準仕様書(JASS 8)で採り上げられ、簡潔な表現に改められた。同時に、防水層上には押えコンクリートを打設して、歩行用に供する場合ルーフィングを2枚張りとするなど、シート防水の概念に多少の変更が加えられた。〔合成高分子ルーフィング防水〕ともいう。







